

講義名	財務会計論 (経営学科)			授業形態	
担当教員	来栖 正利	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

会計が主に扱う財務情報を中心とした「会社四季報」の読み方を講義すると共に、業界分析や企業分析を生成AIを活用した実践演習を行います。財務分析にとどまらず、財務数値の増減変化の意味と理由を生成AIの活用を通じた分析を行うと同時に、関連する雑誌記事の検索も併せて演習します。以上の各種演習結果をレポートとしてまとめ提出してもらいます。

到達目標

主に二つあります。
メディアセンターで利用できる東洋経済新報社のデータベースに収録されている次の書籍の活用能力を高めます：「業界地図」・「会社四季報」・「週刊東洋経済」
業界分析と企業分析を履修者が主体的に行うことができるようになることです。

企業分析または業界分析で取り上げられる代表的な指標(数値)の意味を理解し、代表的な解釈ができるようになることです。これは簿記会計で扱う技法や簿記概念を知り、かつ理解することで指標が示唆する多種多様な「メッセージ」を読み取ることができると可能性を引き上げることです。

提出課題

毎回の講義内容に基づくレポート課題の作成・提出
(A) 専門用語等を生成AI等で調べ、これらの検索結果をうんざりするほどコピーしてもらいます(500-600文字程度)。
(B) (A)を行った上で、配布資料等に関するあなたの意見・提案を「あなた」に考えてもらい、これを手書きで表現してもらいます(780-800文字)

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

- ・毎回の講義開始約10分程度で前回の講義のポイント確認を行います。
- ・講義時間中に使用する資料等の大半は教室で配布せず、Portalにアップする。
- ・USBメモリーを毎回の講義時間に持参すること。

評価の基準

「提出課題」に記録した課題の提出状況
理由を問わず欠席も含むレポート課題未提出は1回について8点減点する。
講義回数(15回)に対して1/3以上を欠席した場合、履修放棄とみなす(欠席理由を問わない)。

< 評価手続きのながれ >
提出状況で事務的に評価対象者を限定する。
を実施し、最終評価対象者を確定する。

履修にあたっての注意・助言他

下記の事項も含めてこの講義の運営方法等について初回の講義時間に行うので、必ず出席すること。欠席理由を問わず、初回を含めてすべての講義に関して、講義欠席者に対するフォローは行わない。
*日本語の読み書き能力：留学生に対しては、少なくとも日本語検定試験2級程度以上の日本語の読解力とボキャブラリーが必要です。これは履修者がデータベースに収録されているデータ(日本語で記載されている内容等)が理解できないと上記で述べたレポート課題作成に時間がかかるためです。
*講義内容は日本商工会議所が主催する日商簿記検定3・2級の試験範囲で扱う項目を取り扱う。

スマホ等を使って検索した結果をコピーすることしか考えていない学生は、何のために履修するのかを考えるべき。

教科書

・就活のための「四季報」活用法.	田宮寛之	三修社	1540	978438406008
------------------	------	-----	------	--------------

参考図書

・会社四季報公式ガイドブック(改訂版).	会社四季報編集部	東洋経済新報社	1980	9784492733373
・伝説の編集長が教える会社四季報はココだけ見て得る株だけ買えばいい!(改訂版)	山本隆行	東洋経済新報社	2200	9784492733372

その他

ありません。補助資料等はすべてPortalにアップし、開講期間中は自由にダウンロードできるようにして置く。

授業計画

第1回 講義概要と学習事項の詳説

第2回 『会社四季報』の紙面構成と東洋経済デジタルコンテンツライブラリー(東洋経済DCL)の収録書籍の詳説
[予習・復習]：それぞれExcelの操作方法に不安がある場合、これらの操作を習え、円滑に操作できるようになることが必要です。『会社四季報』の紙面構成を詳説すると同時に、指定した教科書に紹介されている『就職四季報』も東洋経済新報社の東洋経済デジタルコンテンツライブラリー(東洋経済DCL)に収録されています。(240分)。

第3回 『会社四季報』の読み方：その1
『会社四季報』を有効活用できるための背景知識として財務会計の知識が必要不可欠です。企業という組織の「からくり」を概説しながら、どのような高製品を市場に上市している企業/業界が社会ニーズに応えているのかを考えます。
[予習]：『会社四季報』の読み方を説明した教科書箇所を読み、専門用語等の意味を調べてください(60分)。
[復習]：講義内容を踏まえて、教科書を読み返してください。これらの内容の理解の程度が企業/業界分析の成果に影響を与えます(180分)。

第4回 『会社四季報』の読み方：その2
[予習]：『会社四季報』の「業種・基本情報」欄に記載されている業種/業務内容を示す用語の意味を調べてください。例えば、「営業職」という用語の意味は各社で異なっているはずですが、「営業職」という言葉に含まれる用語をピックアップしておいてください(60分)。
[復習]：講義内容に加えて「業種・基本情報」欄の専門用語/業界用語の意味を調べてください(180分)。

第5回 『会社四季報』の読み方：その3
[予習]：『会社四季報』の「業績記事・材料記事」欄に記載されている(専門)用語の意味を調べてください。例えば、「収益性」という用語を説明できますか。各社がいう「収益性」が意味する具体的な事項として何があるのか、いくつかピックアップしておいてください(60分)。
[復習]：講義内容に加えて「業績記事・材料記事」欄の専門用語/業界用語の意味を調べてください。これらの内容の理解の程度が企業/業界分析の成果に影響を与えます(180分)。

第6回 『会社四季報』の読み方：その4
[予習]：『会社四季報』の「株主」欄に記載されている用語の意味を調べてください。例えば、「外国」/「投信」という用語の意味は何ですか?それぞれの用語で呼ばれる具体的な名称は何がありますか?これらの用語の意味を理解することは証券投資界を知るための第一歩です。(60分)。
[復習]：講義内容に加えて「株主」欄に登録する株主の役割/目的は何ですか?これらの株主が企業に与える影響を調べてください(180分)。

第7回 『会社四季報』の読み方：その5：貸借対照表と損益計算書：その1
[予習]：『会社四季報』の「業績」と「株式」欄に記載されている「数字の羅列」を理解するための講義を今から数回にわたって行います。まず、日商簿記検定3級の出題範囲である貸借対照表と損益計算書の内容と損益計算の方法を確認しておいてください。(60分)。
[復習]：企業という組織を簿記会計がどのように記録・計算するのかを理解してください。なお、これを熟知するのは時間がかかりますので、根気強く復習してください(180分)。

第8回 『会社四季報』の読み方：その6：貸借対照表と損益計算書：その2
[予習]：『会社四季報』の「業績」と「株式」欄に記載されている「数字の羅列」を理解するための講義を今から数回にわたって行います。まず、日商簿記検定3級の出題範囲である貸借対照表と損益計算書の内容と損益計算の方法を確認しておいてください。(60分)。
[復習]：企業という組織を簿記会計がどのように記録・計算するのかを理解してください。なお、これを熟知するのは時間がかかりますので、根気強く復習してください(180分)。

第9回 『会社四季報』の読み方：その7：貸借対照表の役割：調達資金の源泉
[予習]：第8回の講義内容のポイント(全体像)を最初に確認します。その上で、貸借対照表が企業の事業活動のどの部分を記録・表示しているのか、なぜそうなのかといった素朴な疑問に対する自分だけの「解釈」を準備した上で講義に臨んでください(60分)。
[復習]：企業という組織を簿記会計がどのように記録・計算するのかを理解してください。なお、これを熟知するのは時間がかかりますので、根気強く復習してください(180分)。

第10回 『会社四季報』の読み方：その8：損益計算書の役割：調達資金の配分と結果
[予習]：日商簿記検定3級で学ぶ資産と純資産に含まれる諸勘定科目の計上方法を確認しておいてください。なお、仕訳ができればなお最善ですが、できなくても構いません(60分)。
[復習]：長短期借入金で調達した資金の使途とその結果(利益剰余金残高)。さらに長短期借入金と仕入債務が生み出す財務効果を理解してください(180分)。

第11回 『会社四季報』の読み方：その9：損益計算書の役割：調達資金の配分と結果の説明1
[予習]：第7回の講義に向けた予習と講義内容をもう一度見直ししてください。つまり、日商簿記検定3級の出題範囲である貸借対照表と損益計算書の内容と損益計算の方法を今までの講義内容を踏まえた上で確認し直しておいてください(60分)。
[復習]：経営者が行った意思決定の内容と結果が貸借対照表に表示され、他方、このようになっ「た」過程が損益計算書に表示されていることを知ってください(180分)。

第12回 『会社四季報』の読み方：その10：損益計算書の役割：調達資金の配分と結果(経営成績)の説明2
[予習]：企業のあるあるをキャッシュ・フローの源頭である売上高の源流と営業利益の意味を講義します。会計上の5つの利益の第一層目の利益である売上総利益と第二層目の利益である営業利益から企業を取り巻く環境の変化を読み取ることができるよう、いくつかのイメージをもって講義に臨んでください。これらのような企業に就職したいですが、と問われた場合にチェックする業績指標から、あなたが解釈できることをいくつか用意した上で講義に臨んでください(1つこのことを意味します)(60分)。
[復習]：売上高の増減と営業利益の増減から市場動向(社会ニーズの変化)、企業のマーケティングの巧拙、そして経営者の経営管理能力を評価できることを講義内容に基づいて理解してください(180分)。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク

○キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)

東洋経済新報社のデータベースから必要なデータを検索し、これらをエクセルに入力できるか否かという「作業」色が強いです。つまり、与えられた時間内に課題で示さ

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- * 簿記・会計の学制的知識を身につけ、企業の財政状態、経営成績、キャッシュフロー等に関する情報を作成、分析することができるようになります。
- * 企業の社会的役割を理解したうえで、得られた専門知識をもとに企業が直面する問題や企業の強みを発見し、経営戦略の構築に貢献することができるようになります。
- * この講義は会計コースのディプロマ・ポリシーに沿って設置されている科目の一つです。したがって、会計コースに分類されている科目を履修済みまたはこれらの科目に関連している知識を有していることが望ましいです。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

まずは履修者自身ができる限り完成度の高い業界分析なり企業分析ができることが先決です。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考